

夢・努力・感動 ～生徒とともに～

令和2年7月31日(金)
人権・同和教育部だより
3年 生徒・保護者版

みなさんこんにちは、人権・同和教育部です。相変わらず梅雨空が続いていますが、部活動の県総体の代替大会が各地で行われるなど、日常の学校生活が戻りつつある気がします。3年生はこれから進路実現に向けて、一層頑張ってください。

さて、今回の人権・同和教育部だよりは主に6月に行われた人権HR活動について振り返ってみたいと思います。

3年生人権に関するHR活動(6月17日実施)・・・「就職差別について」

今回はいわゆる「就職差別につながる主要14事項」がテーマでした。大社高校では例年、就職希望者は多くありませんが、進学希望者には入試で面接が課される人が多数います。高校卒業後に進学する人も近い将来就職することになりますので、今回学んだ内容は3年生全員が直接関係することなのです。

○HR活動の内容

- ・1970年代に使われていた「社用紙」と、現在使われている「全国高等学校統一応募用紙」を見比べて、その違いについて考える。
- ・模擬面接をみながら、面接の質問内容が適切であるかどうかを考える。
- ・問題のある質問はどれか、また質問の何が問題かについて考える。
- ・「就職差別につながる14事項」とは何かを理解する。
- ・「言わない、書かない、提出しない」取組を実践する姿勢をもつ。

○就職差別につながる14事項

- ①本籍・出生地 ②家族 ③住居状況 ④生活環境・家庭環境 ⑤宗教 ⑥支持政党
⑦人生観・生活信条 ⑧尊敬する人物 ⑨思想 ⑩労働組合・社会運動 ⑪購読新聞・愛読書
⑫身元調査 ⑬社用紙の使用 ⑭必要のない健康診断

上記の「14事項」は、採用選考を受ける本人の能力・適性に関係ない事項です。①～⑪の事項を応募用紙に書かせる、面接時に尋ねる、作文に書かせる、⑫～⑭を実施することは就職差別につながります。なお、①～④は本人に責任のない事項、⑤～⑪は本来自由であるべき事項(思想・信条にかかわること)、⑫～⑭は採用選考の方法の問題です。ただし、就職差別につながる質問は14事項に限られるわけではありません。(例:「血液型は何ですか」、「恋人はいますか」など)

過去の大社高校の3年生にも不適切な採用選考や入試がありました。今回のHR活動を通して、まず就職差別につながる14事項について理解することで差別の不合理さに気づいて下さい。そして、差別選考につながる内容に出会ったときは、「言わない・書かない・提出しない」取組を実践することが自他の人権を守ることにつながることを認識して下さい。特に不適切な面接の質問に対しては「その質問には学校の指導によりお答えできません」と勇気を持って答えて下さい。

皆さんの中には「面接の質問に答えないと、不合格になるのではないか」などと心配する人もいるかもしれませんが、しかし、進学・就職を問わず、不適切な内容があった場合は皆さんが不利な扱いを受けないように島根県教育委員会やハローワークなどと連携して迅速に対応するので安心して下さい。また、受験終了後は全員が受験報告書を提出してもらいますが、不適切な内容があった場合は受験後すぐに担任の先生へ報告して下さい。

就職差別とは、憲法で保障されている職業選択の自由と就業の機会均等という基本的人権を侵害する重大な問題です。日頃から差別を見抜く目を持ち、差別をなくすための行動ができるように心がけて下さい。

○3年生の皆さんの感想文より

- ・中学生のときに同じような模擬面接を見たので、そのときの経験も含めてより深くこの問題について理解することができました。しかし、尊敬する人物や愛読書など答えるべきかどうか迷ってしまう質問もあったので、あらためて14事項をきちんと勉強しないといけないと思いました。
- ・実際に大社高校の中にも不適切な質問を受けた先輩がおられることを知り、自分に関係ない事ではないとわかりました。試験本番でただでさえ緊張している中で、不適切な質問があったとき「学校の指導によりこの質問にはお答えできません」と答えるのは勇気があることですが、しっかりと行動して行きたいと思います。
- ・自分は進学するつもりですが、就職するのもそう遠くありません。社用紙や統一応募用紙の違いなどの事は今回の授業で初めて知りました。面接だけでなく作文や応募用紙などでも「言わない、書かない、提出しない」取組をしていこうと思いました。
- ・世の中には私のように14事項など就職差別について理解が足りていない人、知らない人、間違った理解をしている人がたくさんいると思います。今日学んだことを家族や知らない人に伝えてあげたいです。差別について知らないことは、自分はもちろん他の人にとってもよくないことだと感じました。

学校生活アンケート結果より

6月に「いじめ・学校生活に関するアンケート」を行いました。このアンケートの目的は、大社高校の皆さんが安心して学校生活を送ることができるようにすることであり、今後も学期に1回ずつ実施する予定です。

自由記述欄のある問9では、「クラスや部活の雰囲気は良くて楽しい」、「困っている時に助けてくれる優しい人がいる」、「生徒同士はもちろん、先生とも気軽に話せる環境だと思う」などといった学校生活に肯定的な意見が多く寄せられました。しかし中には、「悪ふざけで汚い言葉を使う人がいる。そういう人に苦手意識がある」、「お互いを尊重できている部分もあるが、できていない部分もある」、「休み時間などでTPOをわきまえずに大騒ぎをする人がいる」といった否定的な意見もありました。

人が不快になるような言葉を学校生活で使うべきでないことは誰もが知っているはずですが、冗談のつもりがエスカレートして、気づかないうちに場の雰囲気を悪くさせている場面があるようです。1学期の終わりにあたり、改めて自他の言動を見直し、お互いに気持ちよく過ごせるようなコミュニケーションを心がけて欲しいと思います。また、以前から担任の先生を通して注意があったと思いますが、引き続いて新型コロナウイルスに関して偏見を持ったり、差別やいじめをしないように気をつけてもらいたいと思います。

このアンケートには、「コロナによる休校の影響で、友達と接する時間が少なくて寂しかった」というような意見もありました。先日行われた校内球技大会でのみなさんの明るい笑顔を見て、クラスメートがふれあうことの大切さを改めて実感しました。今後も気になることや困ったことがあれば、すぐに担任・部活動顧問・教科担当の先生などに相談して下さい。

思えば部活動大会の中止など、あらゆる面でコロナに振り回された1学期でした。2学期は休校をすることなく通常の学校生活を送ることができるよう願っています。

森山祐司(数学科) 今岡雅卓(国語科) 水師敏樹(地歴・公民科)